



〒696-0222 鳥根県邑智郡邑南町下田所282-1  
TEL・FAX (0855) 83-0518  
IP電話 050-5207-4400 E-mail:tadokoro-k@town-ohnan.jp

(令和4年3月17日発行)

出羽氏の歴史と毛利氏との関わりについて

ある時、毛利元就が「領地回復の為に協力する」と出羽祐盛に申し出ました。毛利元就は、大内氏のように調停するとは言わず明快に「出羽氏旧領、出羽郷のすべてを取り戻し譲る」と誘いました。その条件に、出羽氏は毛利氏に命運を賭けると決めて従いました。

しかしながら、出羽郷を支配している高橋氏からは毛利元就の兄である毛利興元の妻を正室に迎えていたり、毛利元就の長女(名前は不明)を高橋氏に養女に出していたため家臣からは高橋氏攻めに対して反対意見が多かったようです。

しかし、毛利元就は家督を相続した頃、それに反対して元就の弟である毛利元綱を擁立しようとした尼子氏の謀略があり、元綱とその側近らを誅殺しなければならぬ事件がありました。この一件には高橋氏も関わっていたようで高橋氏の攻略を考えていました。

そして、毛利元就は約束通り1529年に高橋興光を滅ぼすと、出羽祐盛は残りの出羽四百五十貫を受け取り、出羽氏は約170年ぶりに本拠地を取り戻しました。



そして出羽祐盛は出羽氏が毛利氏の指揮下に入ることを誓約する起請文を提出し、堂々と毛利勢の一翼を担って戦いを始めます。かつての領地をすべて取り戻す固い決意を持つ出羽勢はとて強く、毛利勢の石見侵攻には欠かせない戦力となりました。

1542年毛利元就は出羽氏の戦功に添えて、旧高橋領のうちから石見雪田村を与え、出羽氏は勢力を増していきます。出羽郷は元就の石見侵攻の拠点となり毛利元就は石見進出にあたって度々二ツ山城に本陣を置いており、この頃にはある程度陣城としての機能があったものと思われれます。その中で出羽氏は毛利氏の石見平定の為に先陣を切って戦い、数々の武功を挙げていきます。それを見た毛利元就は次々恩賞を与え、出羽氏は毛利氏重臣の地位を不動にしていきました。

また、久喜銀山も毛利元就の目に留まります。久喜銀山は毛利元就の居城の郡山城(安芸高田市)に近く、鉱物資源は資金・武器を生み出し、毛利氏の飛躍に必要だと確信した毛利元就は、久喜銀山の開発を総力を挙げて取り組む大事業とし、潤沢な資金援助と高度な採掘技術を投入しました。温泉蒼(岩屋)で大鉱脈が見つかり大掛かりな採掘が始まりました。大横谷(久喜)でも大鉱脈が発見

され、採掘の中心は久喜・大林に移っていきませんが毛利氏の貴重な財源であったことには間違いありません。

そして1549年に出羽祐盛が子の出羽元祐へ家督を譲ります。

毛利元就は、出羽元祐と大内家筆頭家老内藤興盛の娘との結婚を決めました。これは毛利家長男の毛利隆元と義兄弟となる結婚でもありました。1557年に毛利元就は安芸国人十一人と盟約を結びましたが、そのなかに出羽元祐が石見国人でありながら加わっており、それだけ出羽元祐(出羽氏)は、毛利元就から高く評価されていたことがわかります。

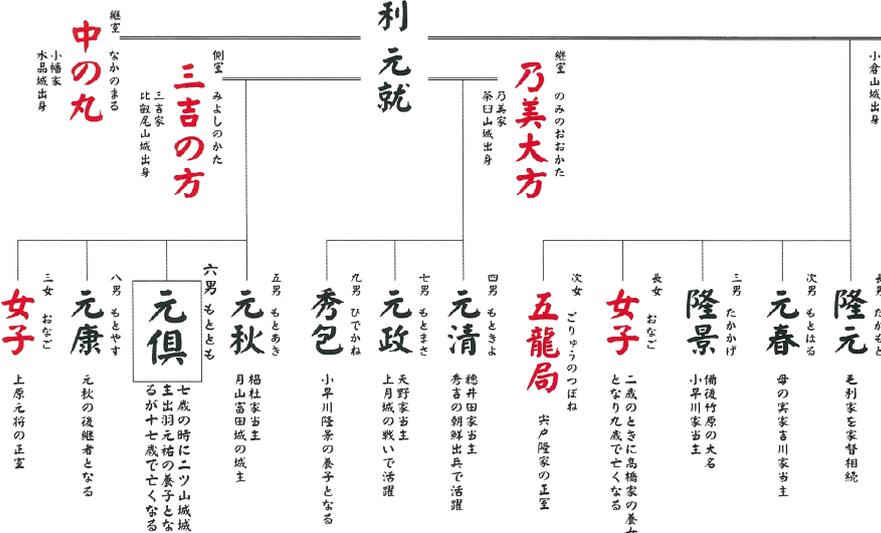
しかしながら出羽元祐と妻(出羽大方)の間には跡継ぎの男子に恵まれず、出羽元祐は毛利氏の恩に報いるため、また毛利一族となることで末永く出羽氏の繁栄を守ろうと考え「毛利氏から婿養子を迎え家督を譲りたい」と元就に願ひ出ます。

そして1562年に元祐は、

元就の六男である元俱(もととも)を娘婿養子に迎え後継者となりました。この養子入りは、元俱の養子先を探していた元就の願ひでもあったようで、二ツ山城は元就の意向により大幅に改修され現在の形になりました。

続く

毛利元就



4月号では、元俱が出羽氏に来てからの様子と、関ヶ原の戦い後に出羽氏ほどのような境遇になったのか紹介していきます。

第1講

桜・花巡りをしよう!



令和4年度女性セミナー第1講「桜・花めぐりをしよう!」を下記の通り開催します。桜などの花を見に、町内を一緒に回りませんか。

- 日時 4月7日(木) 9:00~16:00
- 集合場所 田所公民館
- 内容 町内の桜・花めぐり
- 参加費 1500円(弁当代含む)
- 持参品 お茶・マスク
- 募集人数 先着15名
- 締切り 4月1日(金)

※詳細は、公民館へお問合せください。



最初にフィンランド出身で邑南町教育委員会で国際交流員をされているサカリさんに、自己紹介とモルックの説明を実技を交えてしていただきました。実際にやってみると、皆さん飲み込みが早く、狙ったピンを上手に倒されるフライングプレーも多く、楽しい時間を過ごしました。モルックの道具は、田所公民館や教育委員会にありますので興味のある方はご利用ください。



見事に標的のピンを捉えました

女性セミナー

サカリさんとモルックで遊ぼう

2月17日(木)に女性セミナー第11講を開催しました。

モルックとは1996年にフィンランドで考案された、木の棒を投げて標的の木のピンを倒すスポーツです。ピンには1から12の数字が書かれており、1本倒すと書かれた数字、2本以上倒すと倒したピンの数が得点となり、得点が50点ちょうどになると勝ちですが、50点を超えてしまうと25点に戻ってしまいます。

最初にフィンランド出身で邑南町教育委員会で国際交流員をされているサカリさんに、自己紹介とモルックの説明を実技を交えてしていただきました。

社会教育フォーラム in 邑南開催



これからの公民館の在り方や、新しい可能性を探求し、更なる充実を目指すため、3月12日(土)に元気館で社会教育フォーラムが開催されました。

まず始めに、移動公民館事業などの取り組みをされた阿須那公民館の全国優良公民館表彰の表彰式があり、続けて人づくりをテーマに実践してきた4団体の事例発表がありました。

- ①「市木市」いらっしやい!いらっしやい! (学校と共にある地域づくり)
- ②「中学生SALON」ではばたく準備 (中学生の拠点づくり)
- ③若者が集まる魅力的な公民館! (大人のアフターセブン教室について)
- ④ファーストペンギンってご存じですか (女性リーダーの育成)

続けて、明治大学教授の小田切徳美先生と東京大学大学院教授の牧野篤先生をお招きして、住民自治をテーマに「人を育てる公民館」から「人が育つ公民館」になるにはどうすれば良いかを土居教育長によるインタビュー&対談形式で語っていただきました。

お二人とも「ごちゃ混ぜ」とか「わやくちゃ」というキーワードを出され、世代・地域・団体・性別を問わないフラットなゆるい関係性づくりと、子供の地域づくりへの参加が大切なことだと教えていただきました。おおなんケーブルTVの長尺番組でも放送されますので、ぜひご覧ください。



元気館アリーナ内の様子



対談では貴重な意見が交わされました

全国大会で入賞されました

田所公民館の詩吟教室が「令和三年度テイイク全国吟剣詩舞大会」に出場され、日高美枝子(桜輔)さんが入賞。『テイイク専属吟士』の称号を受けることになりました。

令和3年12月10日、東京の調布市で開催されたテイイク吟詠協会(小林潤会長)主催で全国の吟士が競う「松月城杯」の大会で、島根県から3人が出場し、田所公民館の詩吟教室「公道流瑞峰支部」の日高美枝子さんが全国の強豪にまざって17人の入賞者の中に入られました。

島根県は3人全員が入賞され、審査委員長から好評だったそうです。

今後も、田所公民館のハンザケまつりや、新春互礼会などで野田律子会長とともに頑張られます。



主事のひとりごと...「イカ釣り」

今まで浜田市や大田市の漁港に3回イカ釣りに行きましたが、釣れたことがありません。そのうち1回はイカ釣り名人と一緒に行ったのに...。しかしまた釣りたくなってきたのでチャレンジしてみます。1匹でも釣ってみたいなあ。

☆どがあずしよう会☆



今年の冬は雪が少なかったため2月12日(土)と3月13日(日)に二ツ山整備を行いました。

雪や風の影響で折れた枯れ枝の撤去や枯松の伐採、南出丸に向かう通路の手入れを行いました。

山城を見て歩くには冬が終わわり、木々が芽吹く前の今の時期がお勧めです。

二ツ山城跡にもぜひ足を運んでみてください。



大きな枝が落ちていました



危険な枯松も処理しました

—主な行事予定—

- 3月 -
- 26日(土) ふるさと探検隊(ひな街道めぐり)
- 4月 -
- 7日(木) 女性セミナー(桜・花めぐり)
- 7日(木) いちもくクラブ 19:00~
- 8日(金) 瑞穂小・中学校始業式
- 11日(月) 瑞穂小・中学校入学式
- 14日(木) にもくクラブ 19:00~



田所地区の人口 (2月末)

男性	794人
女性	934人
合計	1728人
高齢化率	44.27%